令和６年度

きこえとことばの支援センター

夏季研修会

日時：令和6年8月26日（月）

講師：筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター

障害者支援研究部（聴覚障害関係） 教授 長南 浩人 氏

演題：「 聴覚障害児の言語、思考、感性を考える 」

当日は、岐阜聾学校会場、飛騨特別支援学校サテライト会場、オンラインでの参加による方法で研修会を実施しました。参加していただいた、保護者・関係機関の皆様ありがとうございました。

参加者の感想

- 具体的な事例を交えて話していただけて、とても分かりやすかったです。知覚と認知の話を聞いて、今自分が関わっている幼児期からの働きかけが大切だと知りました。今後の子供たちとの関わり方に生かしていきたいです。
- いわゆる9歳の壁がどのようにして起こり、どう改善していけば良いか分かりやすかったです。言語を思考の道具にしていくことは、聴覚障がい児以外の障がい児や通常クラスの児童にも当てはまることだと思いました。感性の問題も含め、教師側の対応が試されていると感じました。
- これまで難聴児は言語の発達が遅れる（語彙力が低い，イメージの広がりがない等）と聞いていましたが，通級指導の中であまりそれを感じることができませんでした。今回の研修を受けて，難聴児の言語発達の遅れがどういうものなのかが分かったように思います。その観点で振り返ってみると，私の担当している児童も，確かに同じような傾向があると感じます。今日の研修を今後も繰り返し資料を見直して，児童への支援を考えていこうと思います。
- わからないだろうと諦めず、中学生で９歳レベルの思考になることを意識して、いつか実を結ぶことを信じて環境をつくっていきたいです。